

地球科学輻合ゼミナール

(2012年度 前期 第4回)のご案内

宇宙空間からの超高層大気撮像観測

齊藤 昭則

京都大学 大学院 理学研究科 地球物理学分野

人工衛星による宇宙空間からの地球や惑星の撮像観測は、惑星全体にわたる広範囲な観測が可能であるため大きな成果を上げてきている。特に地球気象分野では多くの気象衛星による連続的な観測が行われており、科学的な面だけではなく、天気予報という実利用の面においても不可欠な観測手段である。それに比べて、地球の超高層大気と他の惑星大気の人工衛星による撮像観測はまだ端緒についた所であり、これから多くの衛星・多くの観測装置による発展が期待されている。惑星大気としては、現在金星軌道を目指している「あかつき」衛星がこのような撮像観測衛星の先駆けである。また、地球の超高層大気の宇宙空間からの撮像観測としては、講演者らが進めている国際宇宙ステーションからの撮像観測ISS-IMAPミッションが、超高層大気観測の新しい分野を拓く事を目指している。講演では、2012年7月打ち上げ予定のISS-IMAPミッションの紹介と、宇宙からみた地球と惑星についての紹介を行う。

5月9日(水) 午後4:30~午後6:00

場所: 理学研究科6号館 303号室